

有機農業推進計画（第2期）に基づく施策の実施状況（概要）

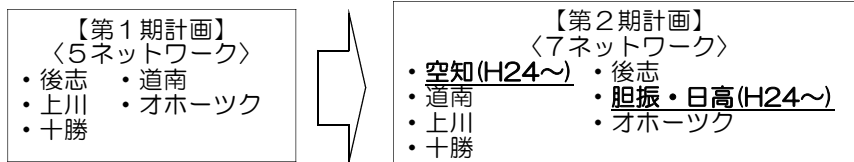
① 有機農業の取組拡大

これまでの取組

地域有機農家等のネットワークづくりなどによる有機農業の拡大促進や有機農業団体等の連携体制の構築などにより有機農業の新規参入を促進するとともに、慣行農家の経営面積の一部を有機農業に転換する一部有機化（庭先有機）の促進などによる有機農業への転換促進など、有機農業の取組拡大に向けて取り組んできました。

○地域における有機農家のネットワークづくり

・ネットワークの設立状況



・ネットワークによる研修、PR活動など

〈各ネットワークの主な活動事例〉

空知	後志	胆振・日高	渡島・檜山	上川	オホーツク	十勝
現地研修会 消費者協会・野菜ソムリエと連携した試食イベント	現地研修会 後志収穫祭での出店PRイベント	現地研修会 販売力向上セミナー 管外現地研修 コープさっぽろと連携イベント	現地研修会 篤志書店と連携PRイベント	現地検討会 セミナー PRイベント	研修会 有機畜産物カシナーによるPR	消費者交流会 管外視察研修 コープさっぽろと連携イベント フードパレー七かち食彩祭でのPR

○環境保全型農業直接支払交付金の活用促進

・「有機農業」が交付対象となっている交付金の活用促進

北海道における環境保全型農業直接支払交付金の交付実績〉

	件数		面積(ha)	
	全体	うち有機農業	全体	うち有機農業
H24	1,168戸	424戸	6,706	2,770
H25	1,336戸	360戸	8,072	2,240
H26	1,300戸	338戸	9,357	2,088
H27	240団体等	83団体等	11,504	1,800

※ H27より対象者の要件が農業者個人から農業者の組織する団体等へ変更

○有機農業技術の向上

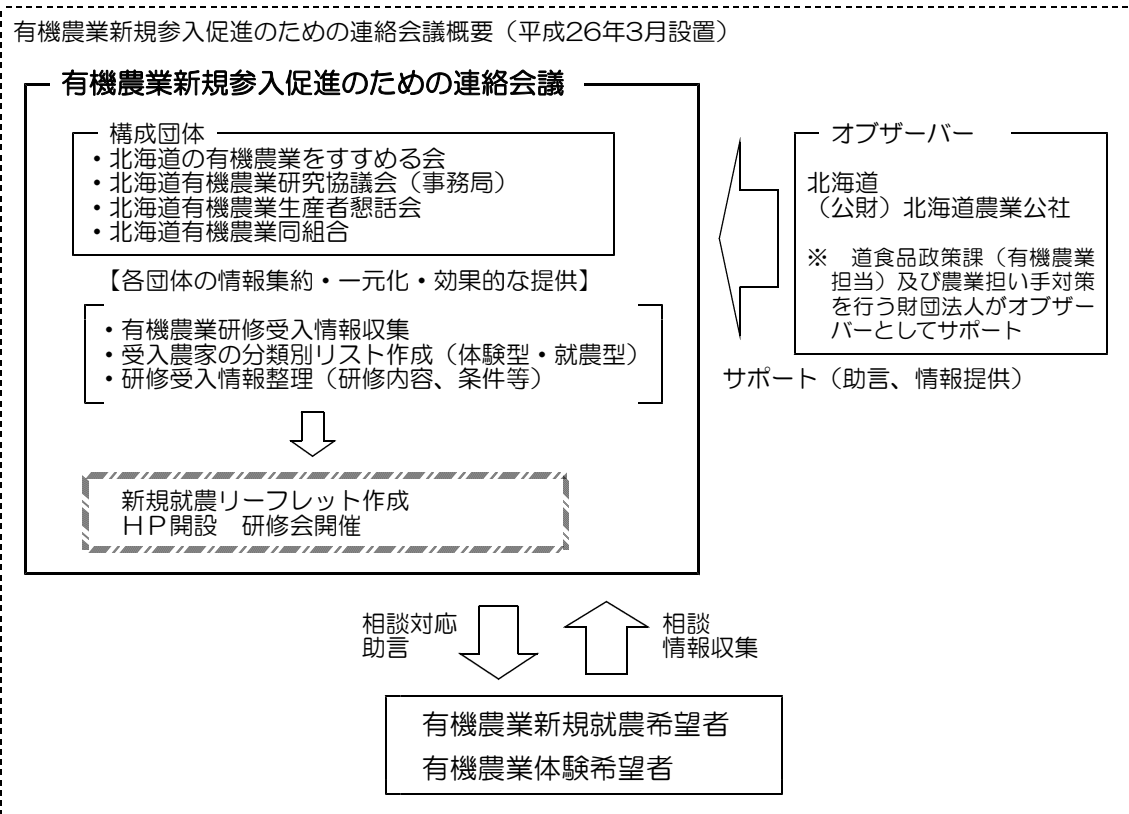
- ・生産者等を対象とした研修等を開催

〈有機農業生産者技術交流会〉

年度	研修会	報告・話題提供等
H24	有機農業地方技術セミナー 〔テーマ〕 有機農業の技術と胆振地域における実践例	<ul style="list-style-type: none"> ・温暖化に伴う気象変動の特徴と土づくり ・自然のサイクルを最大限に活かした有機農業を实践
H25	有機農業セミナー 〔テーマ〕 耕畜連携による飼料生産・利用の取組	・津別町有機農業における耕畜連携
	有機農業技術交換発表会 〔テーマ〕 有機農業への除草技術の組み立て	<ul style="list-style-type: none"> ・畑作物の雑草対策に関する試験 ・豆類の除草機械の活用事例 ・有機ほ場における除草技術の変遷
H26	北海道有機農業技術交換発表会 〔テーマ〕 北海道における持続型農業25年	・北海道におけるクリーン農業・有機農業技術研究の流れと発展方向
H27	有機農業セミナー	<ul style="list-style-type: none"> ・環境保全型農業の科学 ・土壌微生物生態からみた作物生産の特徴

○有機農業への新規参入促進

- ・関係機関の連携体制の構築



- 研修受入先のリスト化
→研修受入農家：就農研修18戸、農業体験研修24戸（リスト化農家数24戸）
- 新規参入事例集等作成・配布

年度	冊子名	内容等
H24	新規就農や経営継承による有機農業の実践	<ul style="list-style-type: none"> • 農外からの新規就農者の事例紹介 • 就農までの各段階における実体験等 (情報収集～現地見学～就農研修) (就農準備～就農)
H25	有機農業への新規就農・参入の手引き	
H26	有機農業への新規就農・参入の手引き(Ⅱ)	
H27	有機農業への新規就農・参入の手引き(Ⅲ)	

- 新規参入関連研修会

〈有機農業生産者技術交流会〉

年度	研修会	報告・話題提供等
H24	有機農業生産者技術交流会 〔テーマ〕 新規就農や経営継承による有機農業の実践〕	<ul style="list-style-type: none"> • 新規参入・有機農業への取組 • 新規有機農業者の実態
H26	有機農業セミナー 〔テーマ〕 地域の農業者が連携して取り組む有機農業の推進	<ul style="list-style-type: none"> • 新規就農者に託す有機農業 • なぜ有機農業を始めたか ～有機農業とどう向き合うか～
	有機農業生産者技術交流会 〔テーマ〕 有機農業を繋ぐ担い手の育成	<ul style="list-style-type: none"> • 研修開始から10年を経過して • 有機農産物流通の現状と新規就農 • 小さな有機農業を営む

○有機農業への転換促進

- 有機農家が実践する生産技術ポイントを収集・整理し情報提供

H25年度	冊子「有機農業のつぼ(パートⅠ)」	2万部発行
H26年度	冊子「有機農業のつぼ(パートⅡ)」	1万部発行
H27年度	冊子「有機農業のつぼ(パートⅢ)」	1万部発行

〈「有機農業技術のつぼ」掲載内容一覧〉（Ⅰ、Ⅱ、Ⅲは、掲載の冊子のパート番号）

技術区分 作物名	除草技術			病害虫防除技術			施肥技術			土づくり技術			その他			計		
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ
水稻	3				1		1									4	1	
麦類													1				1	
豆類	1	1														1	1	
野菜	トマト・ミニトマト			2	1		1						1	3		3	5	
	かぼちゃ	1	1			1							1			1	2	1
	メロン				1												1	
	にんじん	1														1		
	長いも	1														1		
	馬鈴しょ						1			1							1	1
	玉ねぎ	1		1										2		1		3
	ケール												1				1	
複数作物※			1				1		1	1						2	2	
その他(油用ひまわり)													1				1	
計	8	2	2	2	3	2	1	2		2	1	1	7	2	12	16	7	
	12			7			3			3			1			35		

※ 野菜の「複数作物」は、対応作物が2作物以上のもの

※同じ内容を農業雑誌「ニューカントリー」にも連載
H27.4月～H28.3月 12回連載（発行部数1万5千部）

② 有機農業技術の開発・普及

これまでの取組

病害虫に強い品種の開発や有機農産物の収量・品質の安定化技術、病害虫が発生しにくい栽培環境づくり、効率的な雑草防除などの技術開発を進めるとともに、先進的な有機農家が現場で実践している有効な生産技術のポイント（有機農業技術のつぼ）を収集・整理した資料を作成するなど、有機農業実践技術の普及指導に取り組んできました。

○道立総合研究機構と連携した技術開発

- ・計14課題（うち2課題継続実施中）の実施

〈道立総合研究機構において取り組んだ技術開発（H24～27）〉

研究開発項目	実施課題
(1) 病害虫に強い品種の開発	①小豆「十育164号」(H27普及奨励事項、茎疫病抵抗性) ②メロン「空知交23号」(H26普及推進事項、うどんこ病抵抗性)
(2) 土壌管理や有機質資源の有効活用法等の開発	【完了課題】 ①「有機栽培におけるたまねぎ・ばれいしょの窒素施肥基準と窒素負荷低減対策の実証」(H23～H26) ②「有機栽培畑における生産力向上のための緑肥活用法」(H23～H26) ③「たまねぎ有機栽培用育苗培土の利用技術（追補）」(H23～H24) 【継続課題】 ①「多雪地帯の有機栽培たまねぎに対する安定多収を目指した春全量施肥法の確立」(H27～H28年) ②「有機栽培畑のリン酸肥沃度を考慮した有機質資材活用法の確立」(H27～H30)
(3) 収量や品質の変動要因の明確化	①「有機および無化学肥料栽培こまつなにおける品質成分の変動と硝酸塩低減化」(H21～H24)
(4) 病害虫や雑草の防除技術の普及	①「雑草の発生密度を考慮した効果的な除草技術の開発」(H26～H26) ②施設栽培ほうれんそうにおけるハウレンソウケナガコナダニの生態を利用した被害低減対策(H22-27)
(5) 経営モデルの普及推進	①「有機栽培トマトの導入条件と導入効果の解明」(H23～H25)
(6) 有機畜産に係る技術の開発促進	①酪農場における牛白血病ウイルス伝播のリスク要因と防止対策(H25-27) ②SPF 豚農場における豚サーコウイルス 2 型ワクチン接種方法とその効果(H25-27)
(7) 環境負荷や生物相の実態解明及び環境評価技術の開発	①「有機栽培におけるたまねぎ・ばれいしょの窒素施肥基準と窒素負荷低減対策の実証」(H23～H26)

○農業改良普及センターによる指導・情報提供の充実

- ・道総研開発技術の普及
- ・事例収集・整理及び普及

○技術ニーズの把握と研究開発への反映

- 道総研の研究課題への提案
- 現地研修会（道・道総研・地域有機農業ネットワーク共催）開催

〈有機農業技術に関する現地研修会〉

年度	有機農業関連試験成績	事例報告等
H24 せたな町	有機栽培に対応した果菜類の育苗培土作製法	○せたな町オーガニック倶楽部における有機農業の取組状況
	水稻の有機栽培における育苗技術と生産安定化技術	
H25 洞爺湖町	有機栽培コマツナの品質を高める栽培法	○胆振・日高管内における有機・クリーン農業の取組事例
	農業試験場における有機農業研究の成果	○とうや湖周辺のクリーン農業の取組事例
H26 赤井川村	小規模でも高収益！有機トマト導入経営の安定化	○「しりべしなんでも百姓クラブ」とともに地域での連携の輪を広げる ○既存農家と新規就農者が一体となって地域に有機農業を定着させたい
	水稻の有機栽培における育苗技術と生産安定化技術	
H27 帯広市 芽室町	有機栽培畑の地力増進！緑肥の上手な活用方法	○「十勝有機ネットワーク」による食育活動及び消費者交流会の取組
	有機たまねぎ・ばれいしょの窒素施肥法	

③ 有機農産物の販路拡大

これまでの取組

有機農家、流通、販売業者の連携による、有機農畜産物の商談会の開催や量販店における有機農産物の特設コーナーの設置など、販路の拡大を図る取組や、地域における有機農業者のグループ化促進など、効率的な販売に向けて取り組んできました。

○流通業者へのPR活動

- ・「有機農業学習会（コープさっぽろ主催）」への参画
- ・「北の農産品☆見本市」の開催
- ・北海道6次産業化展示交流会開催

○量販店との連携強化

〈コープさっぽろにおける有機農産物販売〉

【取組概要】

- ・コープさっぽろ店舗に専用ブースを設置
- ・北海道有機農業協同組合の協力のもとブースにて有機農産物を販売
- ・ブースには有機農業に関するパネルを掲示
- ・有機農業に関するリーフレット等を配布、説明しながら販売

年度	場 所	摘 要
H25	コープさっぽろ (ソシア店、あいの里店、ルーシー店)	5日間 資料配付:約600部
H26	コープさっぽろ(元町店、ルーシー店)	3日間 来場:約350人 資料配付:約200部
H27	コープさっぽろ(ルーシー店)	3日間 来場:約450人 資料配付:約200部

○地域の有機農家のグループ化促進

- ・ネットワークによる研修、PR活動など（再掲）

④ 有機農業への理解の促進

これまでの取組

消費者と有機農家の交流の場の創出や量販店等でのPR活動などを通じて、自然循環機能の増進、環境への負荷の大幅な低減、生物多様性の保全等といった有機農業が本来有する機能等について、消費者に対して一層の理解促進に努めてきました。

○インターネットやマスメディアの活用

- ・道ホームページにおける情報提供
- ・ラジオ放送局やフリーペーパーと連携した有機農業学習バスツアーの実施

〈有機農業学習バスツアー H25年度〉

媒体	名称	場所
ラジオ局 (STVラジオ)	STVラジオ 工藤準基と行く有機農業体験バスツアー 進行：アナウンサー 工藤準基氏	つちから農場（新篠津村）
フリーペーパー (オントナ)	大地の恵みをいただきます～有機野菜の収穫体験～ 進行：北海道フードマイスター 木村光江氏	たかのふあーむ（積丹町）
ラジオ局 (FM北海道)	AIR-G 有機農業体験バスツアー ～畑でAction～ 進行：FM北海道パーソナリティ 千葉ひろみ氏	大塚ふあーむ（新篠津村）

- ・公共交通機関と連携した普及啓発

〈JR北海道車内誌に啓発記事掲載 H25年度〉

掲載誌	THE JR Hokkaido
テーマ/タイトル	
9月号	YES!clean表示制度の仕組み・特徴 「旭山動物園の動物イラストが付いた YES! clean商品パッケージ」
10月号	特別栽培農産物表示ガイドラインの仕組み・特徴 「北の魚沼をめざす！ゆめぴりかの里 JA新すながわの特別栽培米」
11月号	有機JASの仕組み・特徴 「畑も、地域社会も、自然の中にある。 知って、食べてほしい、有機JAS野菜」
12月号	加工食品におけるYES!cleanマーク表示の仕組み・特徴 「うどん・そうめん、新発売！ YES!cleanマークのついた加工食品」

- ⇒ 11月号で有機JASをテーマとして掲載
実在の有機生産者の取組を通して、有機農産物や有機JAS制度を説明、紹介

○消費者交流の促進やサポーターづくり

- ・ラジオ放送局やフリーペーパーと連携した有機農業学習バスツアーの実施(再掲)
- ・ネットワークによる研修、PR活動など(再掲)

・有機ほ場における収穫体験・交流会の開催

〈消費者と生産者の交流～収穫体験イベント～〉

年度	場 所 等	内 容
H25	無何有の郷農園（安平町） 参加者:49人	・収穫体験 ・試食交流会 ・ほ場見学 ・学習会
H26	はるきちオーガニックファーム（石狩市） 参加者:35人 （生産者7人、消費者25人、有機農協3人）	・収穫体験 ・試食交流会 ・ほ場見学 ・学習会
H27	白石農園（岩見沢市） 参加者:28人 （生産者5人、消費者18人、有機農協5人）	・収穫体験 ・ほ場見学 ・火おこし体験 ・調理体験

○地産地消や食育活動との連携

○学校給食における有機農産物の活用

・学校給食への有機食材の提供と児童生徒への普及・啓発の実施

〈学校給食への有機食材提供と普及啓発〉

【取組概要】

- ・有機農業協同組合の協力を得て小学校の給食に有機野菜を提供
- ・有機野菜を利用した給食を食べてもらいながら有機農業・野菜について説明

年度	学 校	提供有機食材
H25	北広島市内の3小学校で3回 （北の台小、東部小、双葉小） 安平町早来小で5回	にんじん107kg、じゃがいも91kg ごぼう50kg、長いも30kg
H26	北広島市内の2小学校で2回 （東部小、北の台小） 安平町追分小学校で7回 新篠津村新篠津小で5回	じゃがいも101kg、にんじん76kg ごぼう52kg、かぼちゃ66kg、長いも60kg ほうれん草650束、たまねぎ9.2kg ヤーコン10kg、大根182本
H27	北広島市内の4小学校で5回 （東部小、西部小、北の台小、西の里小）	じゃがいも1,103kg、にんじん312kg

※このほか有機食材を給食センターに提供する取組も実施

○イベント等での消費者の理解の促進

・公共スペースにおける有機農産物の販売及び啓発

【取組概要】

- ・公共スペースを活用し、啓発パネルを掲示し啓発資料を配付しながら有機農産物を販売

年度	場 所	啓発資料
H25	札幌駅前地下歩行空間で3回 （①7/25～26、②9/19～20、③12/3～4）	配布：啓発ガイドブック 計1,000部
H26	札幌駅前地下歩行空間で5回 （①6/24、②6/25、③7/29、④10/8～9、 ⑤11/12）	来場：約1,300人 配布：啓発パンフレット 計1,000部
H27	①オーロラタウンコミュニケーションスペース （7/14～22：9日間） ②札幌駅前地下歩行空間（8/6～11；6日間）	来場：①約3,000人、②約1,000人 配布：啓発パンフレット 計600部